

様式3 令和7年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	子供の自己有用感を実感させ、主体的・協働的な学びを実践していく学校づくり ①自己有用感を実感できる ②主体的な活動を引き出し、協働的に問題解決を図る ③学びやすい環境をもち、安全・安心を確保する ④保護者・地域の方々に信頼され、誇れる
--------------------------	---

学校名	新座市立 大和田小 学校
実施日	令和 8年 1月 14日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

評価項目	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
組織運営	学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	・3年生以上の教科担任制の実施により、教材研究の時間の圧縮と指導の充実を図っている。 ・通知表所見欄を各学期に分散した。 ・会議を円滑に進行するために、資料の事前配布や終了時刻を意識して進行することを共通理解とした。	A	教科担任制により、効率よく授業改善ができていていると思う。教材研究など、必要な時間の確保がとれているように感じる。働き方改善により、メリハリのある働き方をしている。遅くまで残る先生や、休日出勤の先生は、あまり見られない。
組織運営	学校は、児童生徒の発達の段階に応じた適切な配慮を行い、一人一人にとって最適な学びを提供するよう努めている。	A	・教師主導ではなくどのように学習をするか児童に委ねたり、学習の仕方を選択させたりすることで児童主体の授業を展開し、個別最適な学びが促進されるよう図っている。 ・評価規準を児童に示すことで、目的意識をもって学べるようにしている。	A	児童の主体性を目指した取組であるが、児童に委ねる場合、その手立てや進め方のヒントなどを提示する必要があるのではないと思う。高学年でもなかなか難しい面もあると思う。児童の自信、有用感、自己肯定感がアップに繋がるよう期待している。
学力向上	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	A	・ゴール（見通し）と振り返りの充実の継続的な実施をしている。 ・ICT活用による成果の把握により、指導と評価の一体化の一層の充実を図っている。	A	毎時間のねらいが明確で、児童の学習への意識が高まっている。授業の進め方、話し方は先生個人の力量に依るところが大きいと思うが、学年の発達段階に応じたきめ細かな指導を希望したい。自己有用感もアップし、それを保護者も感じている。先生方の意識の高さを感じる。
学力向上	学校は、ICTを有効に活用し、発達段階や学力・能力に即した学習指導を行っている。	A	・ロイロノートや電子黒板を活用した授業の充実と、生成AIを活用した資料作成や到達度の分析、集計により指導の充実を図っている。 ・知識の定着についてはAI型ドリルを活用している。テスト配信も適宜試している。	S	電子黒板は大変見やすく、児童にも分かりやすい。先生方、児童が機器を良く使いこなしているように感じた。一人一人の定着度や理解の分析など、今後の活用を期待している。AIドリルでは、どの程度定着しているのか、更に研究を進めて頂きたい。また、使い方について、校内で統一する必要がある。
豊かな心の育成	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつする環境を醸成している。	A	・全校集会であいさつのよさや仕方について話題にし、各学級でも指導できるようにした。 ・あいさつの課題について組織改善委員会や企画委員会で共有し、日々の指導を充実させることを共通認識とした。	S	職員が率先して挨拶をしている。毎月の朝の声掛けでは、自分から大きな声で挨拶する児童が増えている。校内では進んで挨拶をしている児童が多い。地域での挨拶も向上している。これからも自信を持って取り組んで頂きたい。
豊かな心の育成	学校は、児童生徒一人一人が個の特性を認め合って学校生活を送ることができる環境を整備している。	A	・教育相談室、学習室の運用により、どの児童も自分のペースで学校で過ごしたり、学習したりできるようにした。 ・「今日のきらり」の継続実施により、互いのよさを認め合える児童の育成を図っている。	S	教育相談室、学習室の活用では、成果が出ているように感じる。不登校児童への対応も良く取り組まれている。児童一人一人の個性を認め、良く対応しているが、まだ学校に来られない児童への対応を、今後も引き続き継続して頂きたい。
健康・体力の向上・安全	学校は、体育や部活動、休み時間などを通じて、児童生徒が意欲的に運動に親しむような取組を行い、体力向上に努めている。	A	・新体力テスト実施のポイント等を教員間で共有し、充実を図った。 ・新たに大和田体操を作成し、授業内での体力向上が着実に進めるようにした。 ・休み時間に各学年参加型のドローキック遊びを企画し、楽しみながら運動できるようにした。	A	狭い校庭を上手に使って、休み時間に遊んでいる姿をよく見る。新大和田体操を体育の授業等に活用し、体力向上に努めている。2日間の運動会の実施は保護者、児童にとっても心に残る良い取り組みであった。一人一人が役割を自覚して活動し、生き生きと輝いていた。
健康・体力の向上・安全	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	・今年度の危機管理マニュアルを作成し、対応の仕方等について確認した。 ・避難訓練では警察のご指導に基づき、改善を図っている。特に今年度は不審者役を警察の方にやっていただき、ご指導いただいた。	S	警察と連携した危機管理研修は良い取組である。いつ起こるか分からない災害や緊急事態の対応に対し、日頃より児童に声掛けをして欲しい。マニュアルの見直しなど、今後も実施して頂きたい。通用門が開いていることがあるので、関係者への戸締りの徹底をお願いしたい。来年度の工事に対する対応を児童・保護者へ周知して欲しい。
保護者・地域との連携協力	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・日々の学級の様子や行事、給食などについて、ホームページの更新を欠かさず行い、教育活動の発信に努めている。	S	ホームページでは、行事の様子など良く伝わっている。保護地域の方々の意見・要望に適切に対応している。公民館等に学校だよりを置くことで、地域に情報を発信している。せっかく良い情報が掲載されているので、多くの人に読んでもらうよう周知して頂きたい。
保護者・地域との連携協力	学校は、保護者や地域と連携した活動を計画的に実施している。	A	・読み聞かせや花壇の整備、農園作業、運動会や音楽会の運営など、多方面でご協力いただいている。 ・運動会では雨による校庭の対応、音楽会では保護者の誘導等、連携することで学校運営の充実が図れた。	S	多岐にわたる学校行事の運営に、保護者や地域の方々が良く協力している。こうした連携が、児童の豊かな心の育成に繋がっている。更に、各団体との横の関係を密にし、連携を深めていきたい。保護者・学校応援団・地域の方々との連携活動を一層発展させて頂きたい。